

Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

クイズショー小委員会発

はまぎん こども宇宙科学館 なぜナニ化学クイズショー！

令和3年3月28日(日),『なぜナニ化学クイズショー!』を横浜市磯子区の「はまぎんこども宇宙科学館」にて開催いたしました。今回の化学クイズショーは対面式で実施し、午前と午後約45分の講演を2回行いました。講演は当小委員会 内藤卓哉委員が司会を務め、開成中学校・高等学校 宮本一弘先生、逗子開成中学校・高等学校 岩井秀人先生、東京都立つばさ総合高等学校 鈴木孝雄先生の3名がクイズ形式で化学実験を行いました。今回の参加者は2回合わせて約60名であり、オンラインが中心となっている子供たちに、久しぶりにリアルでの化学の楽しさを伝えられたのではないかと考えています。

コロナ禍での対面式クイズショーの実施は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に注力いたしました。はまぎんこども宇宙科学館は通常の新型コロナウイルス感染症対策のほか、入場制限を実施し密を避けており、また空調も整備された施設です。このため、新型コロナウイルス感染症拡大の可能性は極めて低いと思われませんが、クイズショーは子供たち

が密に集まるため、いくつかの工夫をする必要がありました。まず、子供たちの着席間隔を適切に保ち、さらに演示は一段上がったステージ上で行うことで子供たちが容易に近づくことができないようにしました。しかし、これでは実験を



実験風景 (手元カメラによる画像をスクリーンに表示)

ははっきり見ることができません。そこで、スマートフォンを持ちちカメラとして、実験の様子をスクリーンに投影することで座ったまま楽しめるように配慮いたしました。具体的にはスマートフォンのカメラで動画撮影をし、その画面をノートパソコンにミラーリングすることで、パワーポイントのスライドと切り替えながらプロジェクターに投影しました。これによって、離れた席からも実験の様子をはっきりと見ることができ、参加者が一体となってクイズショーを楽しむことができました。

奇しくもコロナ禍においてICT技術が日進月歩に発展しています。我々も新しい技術の導入に積極的に取り組み、コロナ禍以前よりもより良いクイズショーにしようと努力していきます。(遠山岳史 日本大学理工学部教授)

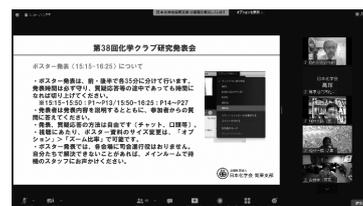
関東支部発

第38回化学クラブ研究発表会

2021年3月30日(火)に日本化学会関東支部主催の第38回化学クラブ研究発表会を開催しました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響により中止になりましたが、今年度はZoomのブレイクアウト機能を用いてオンラインで開催することができました。口頭21件、ポスター27件の発表がありました。また、関東支部内の1都8県の35校の中学・高等学校から327名(事前登録者数)が参加しました。さらに、東海支部内の代表として岐阜県立岐阜高等学校のみなさんにエキシビジョン発表をしていただきました。

口頭発表21件のうち、立教新座高等学校の発表「テルミット反応の反応熱の求め方」に対して、ほとんどの審査員が高く評価し、日本化学会関東支部支部長の鈴木隆之先生より金賞が授与されました。また、茨城県立日立北高等

学校の発表「泳ぐ人工イクラに対するアルコールの影響」には銀賞、茨城県立日立第一高等学校の発表「植物油から合成された界面活性剤の洗浄力に関する研究」には銅賞が贈られました。また、小山工業高等専門学校と玉川学園高等部、駒場東邦高等学校には奨励賞が贈られました。ポスター発表27件の中で、審査員から良い評価を受けた3件にはポスター賞が贈られました。



いずれも興味深い研究発表とレベルの高いディスカッションが活発に行われ、初のオンライン開催にも順応した中学生・高校生の様子を伺い知ることができました。次回以降も中学生や高校生にこのような化学の研究発表の機会を設けて欲しいと思います。

(上野 聡 東京工科大学工学部応用化学科講師)